
役割と外見

守山みかん

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

役割と外見

【Nコード】

N5100Y

【作者名】

守山みかん

【あらすじ】

芳香は、朋美の家に往訪し、掃除機で煎れたお茶、ビデオデッキで焼かれたピザと、洗濯機で作った茶碗蒸しを出され、憂鬱になる

「単に順応性の問題だと思うのよね」

芳香は、朋美のティーカップに二杯目のお茶を注ぎながら言う。
が、事実を知ってしまった朋美には、さすがにティーカップに口を
付ける勇気が起きない。

「だからあ、そんなに警戒しないでよ。そんなに重要なことなの？」
芳香の口調が少しだけ不機嫌気味に乱れる。

朋美は、険悪になりつつあるその場の雰囲気を取り繕うような笑顔
を見せ、芳香の顔を見つめる。

そして、視線を芳香が手に持っているティーポットに移す。

更に視線を左にずらせば、テーブルの上に堂々と居座っている掃除
機が否応にも視界に飛び込んでくる。

本体から伸びている蛇腹ホースは綺麗に巻かれ、T字型をした吸い
込み口から僅かに湯気が立ちのぼっている。

「外見なんて問題じゃないよ。要は中身の問題。他の役を演じてる
と思えば気が楽になるでしょ。機能性に優れていれば、たとえば他の
姿をしていようと、全ては丸く収まるのよ」

「でも、何で掃除機なの？」

朋美が訊ねてみたが、芳香にはまるで耳に届かなかったように、

「今夜、御飯食べてくんでしょ？」と、返してくる。

朋美は、ためらいがちに「うん」と頷く。

「ちよっと待っててね」

芳香は、立ち上がり、全自動洗濯機の前に行く。

カパツと蓋を開け、右腕を洗濯槽の中に突っ込んで何かを探ってい
るのかと思えば、気が付けば右手に茶碗蒸しが二つ載ったお盆を持
って、朋美の目の前まで運んでくる。

「なかなかいい感じにできたよ。めしあがれ」

「こ、これ……洗濯機で作ったの？」

朋美は、声とスプーンを持つ手を震わせながら訊ねる。

「そつえば！」

芳香は、ポンと手を叩くと、隅に置いてあるビデオデッキの前でしゃがみ込む。

次に芳香が振り向いたときには、両手に大きな皿一杯に飾り付けがされたピザが現れている。

「チーズがおいしそうでしょ」

芳香が得意げに言うが、朋美の顔はひきつるばかりである。

「ピンポン！」

玄関のチャイムの音。

「ハイ」と芳香は言つて、床下収納庫の扉を開ける。

すると、そこから芳香の旦那の頭が、ひょっこりと現れる。

「こんにちは」と、旦那は丁寧に頭を下げる。

朋美も釣られるように会釈を返す。

「お風呂にしてくれ」

旦那は、言うが早いか、押入の戸を開けている。

芳香が、サツと部屋を分断するようにカーテンを閉めたが、その隙間から旦那が全裸になって押入の中に入っていったのがチラリと見える。

「いつも、あなのよ」と、芳香は肩をすくめて言う。

「お手洗い、借りられるかしら？」

朋美は、ソワソワしながら訊ねる。

芳香は、洋服ダンスを指差し、「あそこよ」と言う。

「それがトイレ？」と、朋美は目を丸くする。

朋美は、恐る恐る洋服ダンスに近付き、一気に扉を前に開く。タンスの中には重厚なコートやら、派手な刺しゅうが施されたジャケットやら、礼服やらが詰め込まれ、世間一般的に知られているごく普通のタンスと変わらない。

朋美は、洋服類をかき分け、タンスの中を探ってみたが、中には服以外にはジューサーミキサーが一台あっただけで、他には何も入っ

ていない。

（このジューサーミキサーで、どうやって用を足せばいいのだろう？）

朋美は、この家に順応しようとして一生懸命考えてみたが、どうにもジューサーミキサーで用を足せる手段が思い浮かばなかったので、トイレを諦めることにした。

隣の押入からは、ザバァーと湯船からお湯が溢れる音が聞こえてくる。

芳香の旦那は、確かに押入の中で入浴しているらしい。

ということは、おそらくタンスの中で用を足すこともできるに違いない。

朋美は、何だか仲間外れにされているような気分になる。

「先に食べてていいよ」

芳香は、茶碗としゃもじを持ちながら言うと、トイレと書かれたドアの向こうに入っていく。

そして、その部屋から出てくるときには、持っていた茶碗には白い御飯がてんこもりにされている。「今日も綺麗に炊けてるわ」

芳香は、つやつやの炊き立ての御飯を誇らしげにテーブルに並べていた。

（了）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5100y/>

役割と外見

2011年11月17日20時36分発行